

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！  
地域医療を守る共同行動  
みやぎ連絡会  
News

2023.8.25.FRI No.151

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局  
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）  
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

ともに仙台市政をつくる仙台市民の会他2団体連名  
「4病院再編構想の撤回等を求める要請書」県に提出  
&  
「4病院再編構想の撤回」  
仙台駅前アピール街頭宣伝には市民40名が参加！



8月18日（金）ともに仙台市政をつくる仙台市民の会（以下、市民の会）の呼びかけで仙台駅西口ペDESTロリアンデッキで、“4病院再編 計画中止を求める”街頭宣伝が行われ40名ほどの市民が参加しました。この宣伝行動では「県立精神医療センター富谷市移転反対」の署名活動も行われ20筆ほどの署名が集まりました。

この街頭宣伝に先立ち、市民の会他2団体連名の4病院再編構想の撤回等を求める要請書を県に提出し、4病院再編構想の撤回や検討経過を県民に明らかにするよう求めました。あわせて地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会の呼びかけた「4病院再編中止を求める」署名2,837人分の名簿（累計5万1,817名）も提出しています。

2023年8月18日

宮城県知事 村井嘉浩 殿

東北労災病院を守る会  
八木山連合町内会  
ともに仙台市政をつくる仙台市民の会

東北労災病院・県立精神医療センター・仙台赤十字病院・県立がんセンター  
4病院再編に関わる要請書

県民のいのちと健康を守るため日頃からのご尽力に敬意を表します。

(中略) 当初の計画では、4病院再編計画について関係機関が22年度中の「基本合意」を目指して協議するとしていましたが、23年2月に23年度中も協議を継続する旨の「確認書」を労働者健康安全機構並びに日本赤十字社と取り交わしました。3年にも及ぶ議論でも4病院再編計画が進まず、改めて設置主体も成り立ちも違う医療機関の再編がいかにも無謀な計画であるかが明らかとなりました。

東北労災病院・仙台赤十字病院のある仙台市青葉区・太白区の住民だけでなく、仙台市医師会はじめ、患者・障害者団体などからも4病院再編反対の声があがっています。

とりわけ専門家である県精神科病院協会、県精神神経科診療所協会が反対の意見書を県に提出しています。5月に開催された県精神保健福祉審議会では全会一致で「現在の提案（富谷市への移転）では県の考えを審議会として認めることはできない」とし、出席した委員からは県の提案に対し批判が相次ぎました。また、仙台市弁護士会も「患者等の意見を尊重した決定を求める」会長声明を出すなど、県内では日増しに反対の世論が高まっています。

そうした中で、村井知事は6月の記者会見で再編計画の進捗状況を問われ「7合目手前まで来た」とし議論が進んでいるかのような発言をしましたが、私たちが同時期に労働者健康安全機構、日本赤十字社に出向き要請した際には、担当者から知事の発言について「知事の考えを発言したもの」「その上うな認識は無い」など認識の違いが示され、再編統合ありきで議論が進んでいるかのように見せる知事の発言は許し難いものです。また、9月中にも「基本合意」をするとの報道もあり、強引な進め方には怒りを禁じえません。知事は、議会答弁でも「当事者・関係者の声を聴くよう努力する」と言いながら、一切無視する態度は「独断専行」であり、関係団体、住民無視の姿勢は許せません。

私たち東北労災病院を守る会、太白区八木山連合町内会、ともに仙台市政をつくる仙台市民の会は、いのちと健康を守る地域の拠点病院を再編・移転し、医療の縮小と40年～70年の長きにわたり地域に深く根差してきた医療機関の存在をあまりにも軽視するような宮城県の医療政策は断じて許すことはできません。

下記の項目を要請します。

記

1. 4病院再編・統合・移転計画を中止すること。
2. 4病院再編計画の検討経過を県民に明らかにすること。
3. 地域医療の拡充と地域ごとの要望に沿って医療構想を進めること。

以上

# 地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会 4病院再編統合移転計画の白紙撤回を求める要望書を提出



8月10日（木）は4病院再編統合・移転反対の署名簿4万8000筆を提出した地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会の要請活動が行われました。県側医療政策課長他3名が対応しました。

共同代表からは「日本の医療制度の下では、黒字は難しい。合築、統合で展望が見出せるように言うのは欺瞞」と指摘し、4病院再編構想の撤回を求めました。再編構想に関わり、救急医療についても「仙台市内は、一週間で1,000件が救急対応できていない状態。2病院が仙台市外に出て行くことの展望はあるのか？」という問われ、県「仙台市外からの受け入れも対応できるようにしていることも背景にある。」とのこれまでと同様の回答。参

加舎からも「具体的なものが示せていない状態での基本合意か？受療権の保障に対する意見を言う場がないのでは？」との意見が出されました。（写真／要望書を県医療政策課長（左）に手渡す共同代表）

2023年8月10日

宮城県知事  
村井 嘉浩 様

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

## 4病院再編統合移転計画の白紙撤回を求める要望書

わたしたち地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会は、労働組合、医療団体等6団体でつくる連絡会です。この間、仙台医療圏4病院の再編構想で、撤回を求める累計48,980人分の署名を呼びかけ提出してきました。

今回、宮城県が協議を進めている仙台赤十字病院と県立がんセンターの統合、および東北労災病院と県立精神医療センターの合築、4病院再編統合移転計画について白紙撤回を求めるものです。

この問題は、病床数など現在の病院の規模・機能について明らかな縮小となる点です。統合、および合築移転の結果として急性期病床が削減されることは県知事も明言しており、新型コロナウイルス感染症の際に露呈した医療体制の脆弱さをさらに悪化させる、到底受け入れられないものです。さらに、県立がんセンターが担ってきた高度ながん医療・研究所機能の引き継ぎ先についての展望が示されず、民間病院への機能移管も含めた可能性を県知事が示唆している点も見逃すことはできません。

また、4病院で働く職員、利用者、そして地域住民などが不在のまま協議が進められている点では、当事者不在のまま名取市と富谷市が移転候補地にあげられ、数十年間で築いてきた地域の関係性の破壊、通勤や通院のアクセス困難の声が挙がっています。

特に、県立精神医療センター富谷市移転については、県が掲げる「政策医療の課題解決」にはならず、国が進める「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に反する施策と受け止めざるを得ません。

以上のことから現在の再編統合移転計画を一旦白紙に戻し、4病院が地域で果たしている役割を損なうことなく、地域医療体制を維持発展させることを強く求めるものです。

以下、要望いたします、

- 一、4病院再編統合移転計画を白紙撤回すること

以上

記者発表資料  
令和5年8月24日  
精神保健推進室精神保健推進班  
担当：戸刺  
電話：022-211-2518  
seishin-se@pref.miyagi.lg.jp

# 会議開催のお知らせ

## 令和5年度 宮城県精神保健福祉審議会（第3回）

- と き 令和5年8月31日（木）  
午後6時30分から午後8時まで
- 場 所 仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
宮城県行政庁舎9階 第一会議室
- 報告事項 県立精神医療センターの今後のあり方について
- 傍聴定員 10名  
傍聴をご希望の方は、開催予定時刻までに、会場で受付を  
してください。  
傍聴の手続は、先着順に行い、定員になり次第終了します。
- 問合せ先 宮城県精神保健福祉審議会事務局  
(宮城県保健福祉部精神保健推進室精神保健推進班)  
電話022-211-2518

(注 / 報道記事転載の為、組織内資料扱)

## “4病院再編 計画中止を” 市民団体などが県に署名と要請書

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20230818/6000024576.html>



2023年8月18日 NHK仙台  
宮城県が進める4つの病院の再編をめぐり、患者や医療従事者で作る市民団体などが18日、計画の中止を求める署名と要請書を県に提出しました。

宮城県は、医療機関を適正に配置するとして、名取市の「県立がんセンター」と仙台市の「仙台赤十字病院」を統合して名取市に設置するとともに、名取市の「県立精神医療センター」と仙台市の「東北労災病院」を、それぞれの経営主体を残したまま富谷市に設置する計画です。

こうしたなか、仙台市にある2つの病院の利用者や医療従事者で作る市民団体などが県庁を訪れ、計画の中止を求める署名と要請書を担当者に手渡しました。要請書では、計画の中止に加え、仙台市から病院を移し別の自治体で再編することについて、検討過程を明らかにするよう求めています。

「東北労災病院を守る会」の島田福男代表幹事は「再編が計画されている仙台市の2つの病院は、地域にとってなくてはならないものだ。県には、患者や医療関係者、それに地域住民が納得する説明をする責任がある」と話していました。

## 「7合目手前」知事の発言許しがたい 4病院再編で市民団体が反対要望 宮城

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/671219?display=1>



2023年8月18日 tbc東北放送  
宮城県が構想する仙台医療圏の4病院再編を巡り、市民団体が県に対して要請書を提出し構想の撤回などを改めて求めました。

18日は3つの市民団体の代表が宮城県庁を訪れ、村井知事宛ての要請書を県の担当者に手渡しました。市民団体は「再編計画が『7合目手前まで来た』とする村井知事の発言は許しがたい」などと訴えていて4病院再編構想の撤回や検討経過を県民に明らかにするよう求めています。

東北労災病院を守る会・島田福男代表幹事：「医療関係者や患者、地域住民地域医療と言っている以上は、そういう人たちに納得のいく形で説明をする責任があるのではないか」

県の構想は、太白区の仙台赤十字病院と名取市の県立がんセンターを統合して名取市に、青葉区の東北労災病院と名取市の県立精神医療センターを併設して富谷市に移転するものです。市民団体は、9月の議会開会日にも反対運動を行う予定です。

## 「病院再編中止」 2837人分署名提出

市民団体、県に要望

県が主導する仙台医療圏  
4病院の再編構想に反対す  
る「東北労災病院を守る会」  
(島田福男代表幹事)など  
3団体は18日、再編中止を  
求める村井嘉浩知事宛ての  
要請書と2837人分の署  
名簿を提出した。反対署名  
の提出は4度目で、計5万  
1817人分になった。  
要請書は、県の再編構想

の進め方を「関係団体、住  
民無視の姿勢は許せない」  
と批判。再編中止とともに、  
計画の検討経過を県民に  
明らかにすること、地域ご  
との要望に沿って医療構  
想を進めることを要望し  
た。

再編構想は、東北労災病  
院(仙台市青葉区)と県立  
精神医療センター(名取市)  
を合築して富谷市に、仙台  
赤十字病院(太白区)と県  
立がんセンター(名取市)  
を統合して名取市に、それ  
ぞれ新病院を建設する。

### 4病院再編計画の中止を県に要請、市民団体など

<https://www.asahi.com/articles/ASR8L6X84R8LUNHB006.html>

2023年8月19日 朝日新聞

宮城県が主導す4病院の再編構想をめぐる、地域住民や医療従事者らでつくる市民団体などが18日、県に計画の中止を改めて求める要請書を提出した。県の再編構想は「地域に深く根ざしてきた医療機関の存在をあまりにも軽視している」などと訴えている。

要請書を提出したのは、「東北労災病院を守る会」と「八木山連合町内会」、「ともに仙台市政をつくる仙台市民の会」。4病院の再編計画を中止し、地域医療の拡充と地域の要望に沿った医療構想を進めることなどを求めた。

4病院の再編構想は、県立精神医療センター(名取市)を東北労災病院(仙台市)と合築して富谷市に、仙台赤十字病院(仙台市)を県立がんセンター(名取市)と統合して名取市に設置するというもの。県は今年度中の基本合意をめざしている。

# みやぎ県議会だより

第3088回宮城県議会（6月定例会）は6月14日から7月4日まで21日間の日程で開かれた。森林を開発して再生可能エネルギー発電施設を新設する事業者に課税する全国初の県条例や、約83億2200万円を盛り込んだ令和5年度一般会計補正予算、人事案件など21議案と意見書6件をそれぞれ可決した。一般質問では、仙台医療圏に立地する4病院の再編方針や農林水産関連事業の振興策、子育て支援などで活発な議論が展開された。

## 4病院再編丁寧な説明を

### 知事「幅広く意見聞く」

県立がんセンター（名取 取市に、県立精神医療センターと仙台赤十字病院（仙台 名取市）と東北防災台市太白区）を統合して名 病院（仙台市青葉区）を合

築して富谷市にそれぞれ新病院を設置する県の病院再編構想に関しては、丁寧な説明や積極的な情報公開を求める意見が相次いだ。議員は「知事が5月に精神障害がある当事者と面会した際に提案した当事者の意見を聞く機会が、実現しなかったことをどう捉えているのか」と質問。知事は「反対の意向がある当事者から率直な声を伺うため意見交換の場を提案したが、実現しなかったことは残念。今後も粘り強く働きかけ、意見を聞く機会を設ける」と説明した。

議員は「がん対策機能の低下を招く恐れがあることでした。知事は「統合することで、がんを総合的に診療できる病院としての機能強化を図る」と答えた。



6月定例会の本会議

「これまで調査した内容は可能な限り患者や地域住民と共有した上で、意見交換の場を設けるべきだ」と議員は強調。保健福祉部長は「協議の進捗を踏ま

や不安の解消に努める体制づくりは、どのように検討しているのか」と質問。知事は「移転後の精神医療センターとの連携体制や入院調整機能の確保、県南部の患者・家族を支える体制の構築など、引き続き検討する」と答弁した。議員は「がんセンターの今後の在り方に関する報告書に関し、議員は「希少がん・難治がんなどの高度医療に関する研究所機能を維持・継続することをこれまで提言してきた。東北大への移管は議論に反する」と指摘した。知事は「研究所機能は東北大を中心として機能分担を図り、その成果は県全体のがん医療に生かすよう考えている」と述べ、具体的な方向性は引き続き協議する方針を示した。議員は「がんセンター統合後の新病院について、議員は

「がん対策機能の低下を招く恐れがあることでした。知事は「統合することで、

がんを総合的に診療できる病院としての機能強化を図る」と答えた。



### 医療確保へ連携

―宮城県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想では、県と市の主張がかみ合っていない印象だ。

「県は（再編対象の）病院の運営主体と基本合意を締結する前に、責任を持って説明の場を設けてほしい。医療関係者や患者の疑問は市が示してきた懸念とほぼ同じ。市民が安心できる医療提供体制を確保するため、県との連携を深める」

### 4病院再編

# 県「協議進度に差」

## 仙台赤十字側とはなし

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想で、東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）のそれぞれと進める協議について、県は21日の県議会環境福祉常任委員会で「話し合いの進度に差がある」との認識を示した。東北労災側と7、8月に会合を2度開いたが、仙台赤十字側とは「具体的な意見交換はしていない」とした。県が双方との協議の状況を明らかにするのは初めて。

構想は、東北労災と県立精神医療センター（名取市）を合築して富谷市に、仙台赤十字と県立がんセンター（名取市）を統合して名取市に、それぞれ新病院を整備する。県はそれぞれの枠組みで本年度中の基本合意の締結を目指している。

県によると、東北労災と精神医療センターの合築を巡り7月31日と8月29日に実務者間などの協議を行い、次回は9月中を予定する。精神疾患と身体疾患の

合併症への対応など具体的な議論もされているという。

一方、仙台赤十字とがんセンターの統合について、志賀慎治健康福祉部長は「県と日本赤十字社の間で」

さまざまな協議をしているが、（現場の）両病院を交えた具体的な意見交換はしていない」と説明。委員に「まだアウトラインの議論か」と問われ、肯定した。

東北労災と精神医療センターの合築協議が先行する形だが、このまま基本合意に進むかは見通せない。

県は精神医療センターの富谷市移転で県南の精神科患者を取り残さないよう、仙台赤十字とがんセンターの統合協議に精神科外来機能の新設を盛り込む。統合協議が遅れて精神科外来の具体像が見えない状況が続けば、合築協議にも影響する可能性がある。